



尾形 浩文 氏

経営概要

所在地：福岡県久留米市

従業員：家族4名、常時雇用3名、外国人6名、
障がい者就労施設10名

栽培品目：小松菜（ハウス2ha）、ほうれん草
（露地6ha）、加工用ジャガイモ
（10ha）、ブロッコリー（3ha）、パクチ
・空心菜等（1ha）、飼料稲（WC S 3ha）



平成3年就農（サラダ菜0.25ha）。就農当初は台風により新設したハウスが大被害を受けるなど、農業の継続が厳しい状況もあったが、その後、規模拡大や栽培品目の変更等経営努力により経営は改善。

「経営理念」である『ここに農地があることに感謝し、皆さんに喜ばれる地域農業を実現する』をモットーに長期的な経営戦略を見据えながら事業を展開していく。

外国人材の受け入れについて

➤ 受け入れのきっかけを教えてください。

12年前（平成22年頃）経営規模拡大に伴う労働力確保のため、外国人労働者は勤勉であるとの友人の勧めもあり、管理団体に相談しながら中国人2名を受け入れました。

その後、7年前（平成28年頃）頃からはベトナム人にシフトし、現在は、ベトナム人20代女性6名（うち特定技能1名）を受け入れています。特定技能外国人は、当園で5年半仕事に従事していますが、通訳や後輩を指導してくれるなど非常に助かっています。

外国人は、とてもまじめに働きます。管理料などの経費負担は高額になりますが、一度外国人を雇用すれば、大半の農家は、継続して外国人を雇用したいと考えています。

➤ 外国人材の業務内容や受入れの効果はどうか。



ほうれん草の調製作業

園芸農業作業全般（種まき、植付け、収穫、調製等）に従事してもらっています。外国人は影日向なく、どんな仕事もこなします。

また、自国にないものに興味津々で、希望する場合は、ほ場では、移植機等の機械操作を任せられることもあります。

新たな取組みとして、実習生からベトナム料理に欠かせない野菜（パクチ、空心菜、カーア（小なす））の栽培方法を学びながら生産し、ベトナム料理店、ベトナム雑貨店への販路拡大につながっています。

受け入れ農家としての取組(生活環境・コミュニケーション)

➤ 外国人材の生活環境を教えてください。

自宅敷地内に1人部屋(6畳)のプレハブ6基を設置し、外国人はそこに住んでいます。

以前は2人1部屋でしたが、現在は完全個室にしたので、プライベートが確保でき、快適に過ごしているようです。住居費は光熱費込で2万円です。

時々自室でカラオケをしたり、ベトナム人バレー愛好会に加入(2名)するなど楽しみながら生活しています。

休日は週1日(日曜日)です。外国人それぞれに園地への移動用として電動自転車(1000円/月)を提供しています。休日はこれを利用して最寄りの駅まで行って、福岡方面に遊びに行くなど重宝しているようです。



小松菜の収穫作業

➤ 受け入れるにあたって心掛けていることはありますか。

外国人には、毎日、朝夕の声かけや朝礼時にコンディションを確認するなど気配りをしています。

毎月、バイキングやうどん、焼き肉などの店に連れて行き食事会を行ったり、誕生日にはパーティを開催し、プレゼントを渡したりしています。また、花見、佐賀のバルーンフェスタ、太宰府天満宮、福岡天神、花火大会にも連れて行くなどコミュニケーションを図っています。

地域では、町内の障がい者施設で行われる祭で、毎年ブースを設置し、外国人が作ったベトナム料理を提供するなど交流を行っています。

元気で明るい若者と一緒に生活していると自分も若返ります。外国人は私のことをお父さんと妻はお母さんと呼んでくれます。みんな家族同然であり、私達には欠かせない存在になっています。

地域は高齢化が進んでいますが、地域の方からは、若い女子から「おはようございます」と挨拶されると快いと言われます。また、時々、近所から外国人にと野菜や苺をもらいます。

近所から苦情があった場合は、とにかく相手方の話を最後まで聞きながら、誠意をもって対処しています。ベトナム人を受け入れて8年になりますが、これまで失踪等の大きな問題は起こっていません。

今後の事業展開

➤ 今後の展開や取組について教えてください。

単価低迷のリスク分散のため、加工用ジャガイモの栽培を開始し、今年は15haの作付けを目指します。また、需要があるベトナム料理に欠かせない野菜の品目を増加し、販路(量販店、産直、転送業者、ネット)を拡大していきたいと思っています。

また、近年は豪雨災害が頻発していることから、これを回避するため、湛水リスクの少ない地域にハウスを建設するなど対応していきたいと考えています。



ベトナム料理店に野菜を出荷